

テーマ：北方領土（実践校）

釧路管内 浜中町立散布中学校

■本実践のポイント（概要）

- ・ふるさとに対する愛着や誇りを育むため、北方領土の語り部による講話を聞いたり、北方領土の歴史や現状について理解を深めたりする学習活動や、北方領土の歴史やふるさとを思う気持ちについて表現する学習活動を展開しました。

■ふるさと教育の実践内容

①取組の様子

(1) 課題の設定

北方領土の語り部による講話等を通して、北方領土の歴史を理解することにより、生徒の興味・関心を高め、「北方領土について調べ、考えたことを発信しよう」という学習課題を設定しました。

(2) 情報の収集

北方領土の語り部から、当時の島民の様子や島民の暮らし、ロシアとの関係等に係る情報を提供してもらうことにより、元島民の戦後の苦労やふるさとへの思いについて理解を深めました。

また、北方領土のリーフレットや1人1台端末を用いた調べ学習を通して、北方領土に関する情報を収集しました。

(3) 整理・分析

講話や調べ学習を通して得た情報を基にして、他国との関係や島民の思い等に注目しながら、北方領土の返還に向けてよりよい解決方法について考えました。

(4) まとめ・表現

生徒が学習の成果を1人1台端末を用いてプレゼンテーションソフトでまとめ、発表しました。感想を交流したり、教師がコメントを加えたりすることにより、生徒はさらに自分の考えを深めました。

②生徒の感想等

- ・北方領土の語り部が当時の島民の様子や暮らし等をお話しして下さったことにより、北方領土をはじめとした様々な国家間の問題について考えることができました。
- ・平和的に解決するために、お互いの国のことをよく知る必要があると思いました。



【北方領土の語り部による講話】

■取組の成果（○）と課題（●）

- 北方領土に係る学習についてのアンケートでは「北方領土の自然や歴史、領土の返還についてもっと調べたいと思いますか」という設問に対して、「調べたいと思う」、「どちらかという、調べたいと思う」と回答した生徒の割合が、70%から90%に増加するなど、北方領土に対する興味・関心を高めることができました。
- ふるさと教育の実践にあたり、生徒が主体的に学び、より一層理解を深めることができるよう、体験活動を計画的に位置付けたり、目的を明確にした発表・交流の場を設定したりするなど、単元構成を工夫する必要があります。